

## 第9章 長野・諏訪地域の若者のソーシャル・ネットワークと意識

### 1. はじめに

本稿は、長野市と諏訪地域（以下、あわせて長野と呼ぶ、長野市の場合には長野市と表記する）の若者のソーシャル・ネットワークと意識について、属性別に検討する。

本稿がソーシャル・ネットワークに着目した分析を行うのは、ソーシャル・ネットワークのありようと就業の結びつきについて検討するためである。すなわち先行研究においては、就業形態がソーシャル・ネットワークに影響を与えていること、あるいはソーシャル・ネットワークによって就業が促されるなどの知見が見出されている（労働政策研究・研修機構2006b）。特に東京都の若者調査においては、就業形態が若者の生きる世界を規定していることが観察されてきた。こうした傾向は、長野の若者についても確認できるのだろうか。

以下では基本的な変数として、年齢（3区分）・地域（長野市・諏訪市）・学歴（高卒以下学歴、高等教育＝高等教育へ進学経験がある者）・就業形態に着目しながら、長野の若者のソーシャル・ネットワークについて探っていく。ソーシャル・ネットワークをはかる際にはしばしば悩んだときの相談相手が用いられるので、本稿でも同様の手法で分析を行う。

### 2. 誰が問題を抱えているのか

ソーシャル・ネットワークの具体的な検討に入る前に、まず誰がどのような問題を抱えていると回答しているのかについて分析しよう。

今回の調査では、「あなたは現在、a～d のことについて悩みを持っていますか。もし悩みを持っている場合には相談する相手について、あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。」と尋ね、次のような具体的な場면을挙げている。「今の自分の仕事や働き方について」、「これからの生き方や働き方について」、「人間関係について」、「経済的な問題（お金のこと）」、である。

図表9-1は、年齢別に悩みの有無を見たものである。男性については年齢的な特徴は見られないが、女性については「経済的な問題（お金のこと）について」を除き、年齢があがるほど、悩みが「ある」と回答する割合が減っていることがわかる。

図表 9-1 悩みが「ある」と回答した人の割合（年齢別）

	年齢	悩みの有 無／今の 自分の仕 事や働き 方につ いて	悩みの有 無／これ からの生 き方や働 き方につ いて	悩みの有 無／人間 関係につ いて	悩みの有 無／経済 的な問題 （お金の こと）に ついて	N
男性	20-24	56.9	62.0	54.0	65.0	137
	25-29	57.7	66.1	52.4	58.9	168
	30-34	56.5	65.4	53.3	62.6	214
	合計	57.0	64.7	53.2	62.0	519
女性	20-24	72.4	80.3	73.2	68.5	127
	25-29	68.6	78.0	68.6	68.6	159
	30-34	59.5	72.8	59.5	61.0	195
	合計	65.9	76.5	66.1	65.5	481

次に、地域別（長野市と諏訪地域）を比較した（図表 9-2）。男女とも、またどの項目においても、長野市在住の若者の方が、悩みが「ある」と回答する割合が高くなっている。特に仕事関係の悩みでは違いがはっきりしており、諏訪地域の若者は相対的に問題を抱えている割合が低いことがわかる。

図表 9-2 悩みが「ある」と回答した人の割合（地域別）

		悩みの有 無／今の 自分の仕 事や働き 方につ いて	悩みの有 無／これ からの生 き方や働 き方につ いて	悩みの有 無／人間 関係につ いて	悩みの有 無／経済 的な問題 （お金の こと）に ついて	N
男性	長野市	66.3	73.4	54.8	69.0	252
	諏訪地域	48.3	56.6	51.7	55.4	267
女性	長野市	74.6	82.7	67.7	69.8	248
	諏訪地域	56.7	70.0	64.4	60.9	233

続いて、結婚の有無による違いを見た（図表 9-3）。経済的な問題を除き、男女とも結婚していない若者の方が悩みは「ある」と答える割合が高い。特に女性については明瞭な差が見られる。ただし経済的な問題になると、結婚している若者の方が悩みは「ある」と回答する割合が高くなっている。今回の項目は、離死別の場合には「結婚していない」に含まれているため一概には言えないが、結婚は精神的に安定をもたらすものになっているようである。

図表 9-3 悩みが「ある」と回答した人の割合（結婚しているかどうか）

		悩みの有 無/今の 自分の仕 事や働き 方につ いて	悩みの有 無/これ からの生 き方や働 き方につ いて	悩みの有 無/人間 関係につ いて	悩みの有 無/経済 的な問題 (お金の こと)に ついて	N
男性	結婚している	55.3	62.4	52.9	65.9	170
	結婚していない	58.0	66.1	53.4	60.3	348
女性	結婚している	56.1	68.8	54.8	66.9	157
	結婚していない	70.9	80.5	71.8	65.0	323

次に、学歴による違いを分析した（図表 9-4）。男性はいずれも「高卒以下」学歴で悩みが「ある」と回答した割合が高くなっている。女性は経済的な問題を除くと、「高等教育」経験者で、悩みが「ある」と答える割合が高い。

図表 9-4 悩みが「ある」と回答した人の割合（学歴）

		悩みの有 無/今の 自分の仕 事や働き 方につ いて	悩みの有 無/これ からの生 き方や働 き方につ いて	悩みの有 無/人間 関係につ いて	悩みの有 無/経済 的な問題 (お金の こと)に ついて	N
男性	高卒以下	59.0	67.8	56.6	69.8	205
	高等教育	55.9	62.6	50.8	56.9	313
女性	高卒以下	60.1	71.9	63.5	66.3	178
	高等教育	69.3	79.2	67.7	65.0	303

最後に就業形態別にみると（図表 9-5）、正社員でもっとも悩みが「ある」と回答した割合は低く、パート・契約・派遣で高くなっている。特に就業形態別の差は男性で大きい（自営・家業については対象者数が小さい）。

図表 9-5 悩みが「ある」と回答した人の割合（就業形態）

		悩みの有 無/今の 自分の仕 事や働き 方につ いて	悩みの有 無/これ からの生 き方や働 き方につ いて	悩みの有 無/人間 関係につ いて	悩みの有 無/経済 的な問題 (お金の こと)に ついて	N
男性	正社員	52.3	60.3	49.6	58.7	375
	パート・契約・派遣	71.3	78.7	67.0	74.5	94
	自営・家業	50.0	50.0	25.0	25.0	4
	失業・無職	64.9	73.0	54.1	67.6	37
女性	正社員	65.3	75.8	66.5	64.7	343
	パート・契約・派遣	68.8	79.2	66.7	72.9	96
	自営・家業	42.9	57.1	42.9	42.9	7
	失業・無職	72.7	86.4	72.7	63.6	22

以上から、①女性は年齢があがるほど悩みが少なくなる、②長野の方が諏訪よりも悩む環境にある、③結婚は悩みを減らす、④男性は学歴が低い方が悩むが、女性は学歴が高い方が悩んでいる、⑤正社員よりもパート・契約・派遣の若者の方が悩んでいる、ということが見いだされた。

それでは若者はこうした悩みに対してどのように対応しているのだろうか、以下では相談ネットワークについてみていく。

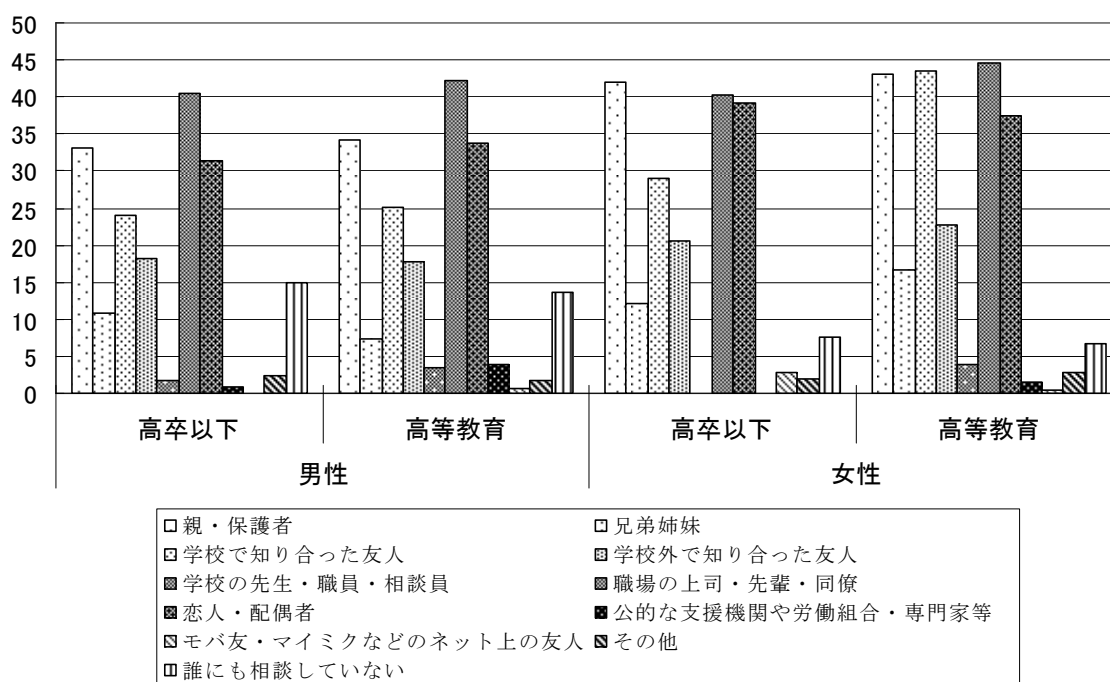
### 3. 相談ネットワークの分化

続いて、相談ネットワークの状況について概観したい。はじめに性別・学歴別に相談ネットワークの状況について把握する。

#### (1) 性別・学歴別に見た相談ネットワークの状況

「今の自分の仕事や働き方について」の相談相手を見ると（図表9-6）、男女を比較すると、女性のほうが多様であることが見て取れ、男性は「誰にも相談しない」割合が女性よりも高い(男性高卒以下14.9%、男性高等教育13.7%、女性高卒以下7.5%、女性高等教育6.6%)。それぞれ学歴別にみると、男性はほとんど違いが見られない。女性は、高等教育進学者のほうがより多様であり、特に「学校で知り合った友人」(高卒以下29.0%、高等教育43.6%)において高くなっていることがわかる。

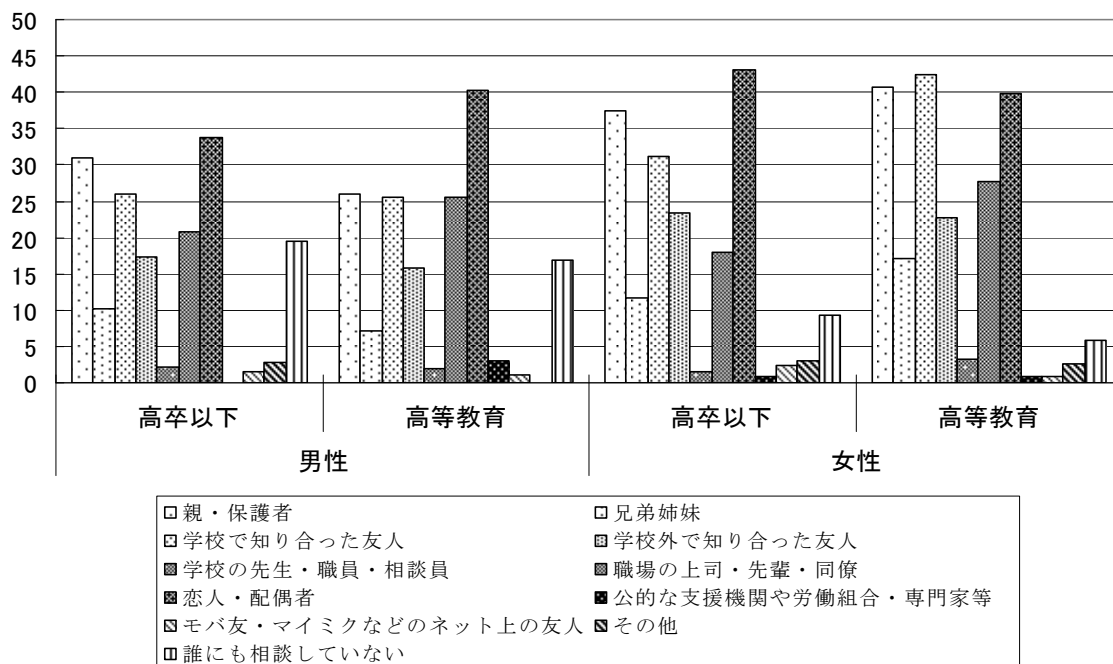
図表9-6 性別・学歴別相談ネットワークの状況（今の自分の仕事や働き方について）



「これからの生き方や働き方について」の相談相手は（図表 9-7）、女性が多様であるということについては図表 3-1 と共通しているが、特に「職場の上司・先輩・同僚」（男性高卒以下 20.9%、高等教育 25.5%、女性高卒以下 18.0%、高等教育 27.8%）「恋人・配偶者」（男性高卒以下 33.8%、高等教育 40.3%、女性高卒以下 43.0%、高等教育 39.8%）において学歴別の差異が見出された。

「職場の上司・先輩・同僚」についてはいずれも高学歴者の方が高くなっているが、「恋人・配偶者」については、男性では学歴が高い方が、女性は学歴が低い方が相談相手と回答する比率が高くなる。また女性についてはここでも高学歴者が「学校で知り合った友人」（高卒以下 31.3%、高等教育 42.3%）と答える割合が高くなっている。

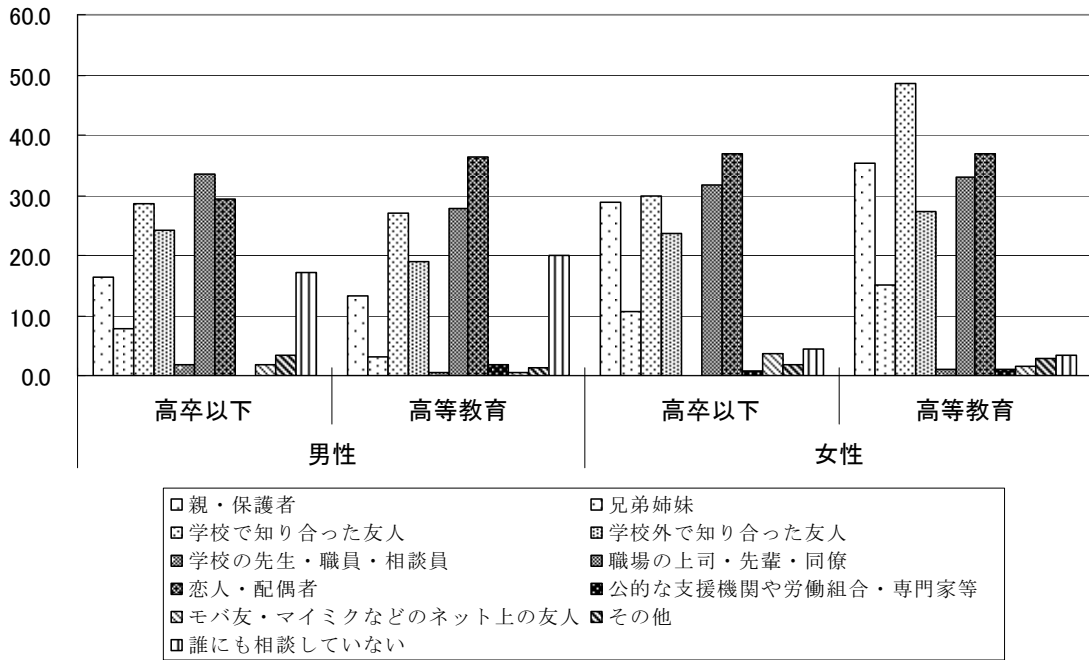
図表 9-7 性別・学歴別相談ネットワークの状況  
（これからの生き方や働き方について）



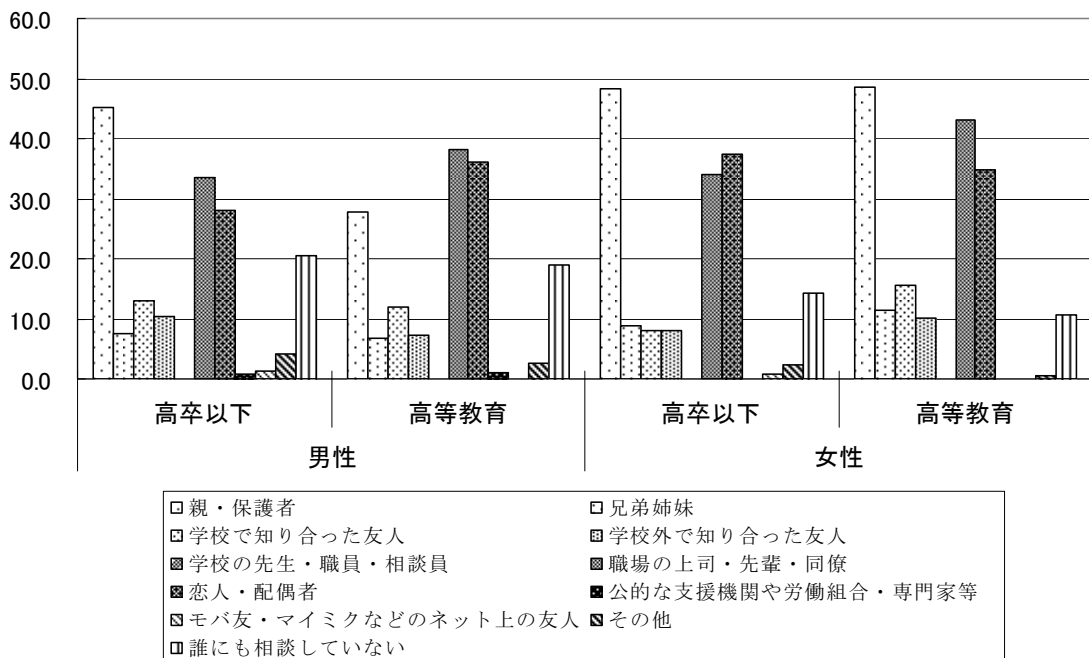
次に、人間関係についての相談相手を検討した（図表 9-8）。女性のほうが全体として多様であり、男性は「誰にも相談しない」割合が女性よりも高いが、図表 9-9 や図表 9-10 と比較すると、学歴による差異が明瞭である。

男性の場合、高卒以下学歴であると「学校外で知り合った友人」（24.1%）「職場の上司・先輩・同僚」（33.6%）を相談相手とする割合が高く、高等教育進学者であると「恋人・配偶者」（36.5%）の割合が高くなる。女性の場合には、「親・保護者」（35.4%）「兄弟姉妹」（15.0%）「学校で知り合った友人」（48.5%）において高等教育進学者が高くなっていた。

図表 9-8 性別・学歴別相談ネットワークの状況（人間関係について）



図表 9-9 性別・学歴別相談ネットワークの状況（経済的な問題（お金のこと）について）



経済的な問題（お金のこと）についての相談相手を見ると（図表 9-9）、前の 3 つの図表と比較して男女差が小さい傾向にあったが、ここでも男性で「誰にも相談していない」（男性高卒以下 20.5%、高等教育 19.1%、女性高卒以下 14.3%、高等教育 10.6%）割合が高

かった。また「親・保護者」の割合も高くなったが、高等教育進学者は男女とも「職場の上司・先輩・同僚」が高かった（男性高卒以下 33.6%、高等教育 38.1%、女性高卒以下 34.1%、高等教育 43.1%）。

以上の分析から、①経済的な問題を除くと、女性において相談相手が多様である、②仕事関係の悩みは「職場の上司・先輩・同僚」の比率が高くなるが、特に高学歴者に顕著である、③高等教育進学者の女性にとって、経済的な問題を除くと「学校で知り合った友人」が重要な相談相手となっている、④高等教育進学者の男性は人間関係については「恋人・配偶者」に、経済的な問題については「職場の上司・先輩・同僚」に相談する比率が高かった、という傾向が見られた。

## （２）年齢別に見た相談ネットワークの状況

続いて、年齢と相談相手について検討した（図表 9-10）。大まかに言えば、年齢が上がるとともに、親・保護者や兄弟姉妹など家族から、「職場の上司・先輩・同僚」「恋人・配偶者」へと相談相手が変わっていく成長過程が見えてくる。

図表 9-10 年齢と相談相手

	年齢 (歳)	親・保 護者	兄弟姉 妹	学校で 知り 合った 友人	学校外 で知り 合った 友人	学校の 先生・ 職員・ 相談員	職場の 上司・ 先輩・ 同僚	恋人・ 配偶者	公的な 支援機 関や労 働組 合・専 門家等	モバ 友・マ イミク などの ネット 上の友	その他	誰にも 相談し ていな い	無回答	合計	
今 の自 分の 仕 事 や 働 き 方	男性	20-24	48.7	12.8	25.6	21.8	5.1	38.5	28.2	2.6	0.0	1.3	12.8	78	
		25-29	32.0	4.1	25.8	18.6	2.1	37.1	28.9	3.1	1.0	2.1	12.4	97	
		30-34	25.6	9.9	23.1	14.9	1.7	47.1	38.8	2.5	0.0	2.5	16.5	121	
	女性	20-24	50.0	17.4	46.7	20.7	4.3	46.7	26.1	1.1	2.2	2.2	12.0	0.0	92
		25-29	49.1	16.4	38.2	25.5	2.7	41.8	40.0	0.0	0.0	3.6	2.7	0.9	110
		30-34	31.0	12.1	32.8	19.8	0.9	41.4	45.7	1.7	1.7	1.7	6.9	0.0	116
こ れ か ら の 生 き 方 や 働 き 方	男性	20-24	47.1	10.6	28.2	21.2	2.4	20.0	27.1	2.4	0.0	1.2	16.5	85	
		25-29	26.1	4.5	25.2	16.2	2.7	22.5	32.4	1.8	1.8	0.9	17.1	111	
		30-34	17.9	10.0	25.0	13.6	1.4	26.4	48.6	1.4	1.4	1.4	19.3	140	
	女性	20-24	39.8	23.3	45.6	20.4	6.8	23.3	31.1	1.0	1.0	1.9	8.7	1.0	103
		25-29	47.6	13.7	41.9	25.8	2.4	24.2	43.5	0.8	0.8	2.4	6.5	0.0	124
		30-34	32.4	10.6	30.3	22.5	0.0	25.4	45.8	0.7	2.1	3.5	6.3	0.0	142
人 間 関 係	男性	20-24	25.7	8.1	35.1	27.0	1.4	24.3	24.3	1.4	0.0	4.1	14.9	74	
		25-29	9.1	3.4	35.2	23.9	1.1	29.5	31.8	0.0	3.4	1.1	15.9	88	
		30-34	11.4	4.4	17.5	14.9	0.9	34.2	41.2	1.8	0.0	1.8	23.7	114	
	女性	20-24	32.3	14.0	46.2	21.5	1.1	33.3	28.0	1.1	2.2	2.2	4.3	0.0	93
		25-29	36.4	13.6	46.4	29.1	0.9	32.7	40.9	0.0	1.8	1.8	5.5	0.9	110
		30-34	30.8	12.8	34.2	26.5	0.0	31.6	40.2	1.7	2.6	3.4	1.7	0.9	117
経 済 的 問 題 (お お し や ま な い)	男性	20-24	47.3	9.9	15.4	8.8		33.0	18.7	0.0	0.0	2.2	22.0	0.0	91
		25-29	38.0	3.7	15.7	13.0		33.3	27.8	0.0	1.9	5.6	18.5	0.9	108
		30-34	26.1	7.7	7.7	4.9		40.1	45.8	2.1	0.0	2.1	19.0	0.0	142
	女性	20-24	56.8	9.5	16.8	11.6		45.3	20.0		0.0	2.1	9.5	1.1	95
		25-29	51.3	12.0	12.8	8.5		39.3	43.6		0.9	0.9	8.5	0.9	117
		30-34	40.2	9.8	9.8	8.3		36.4	40.2		0.0	0.8	16.7	1.5	132

ただし女性では「誰にも相談していない」割合が年齢の高い層で減少するのに対して、男性では上昇しており、悩みを抱え込む 30 代前半男性の姿が垣間見えるようである。

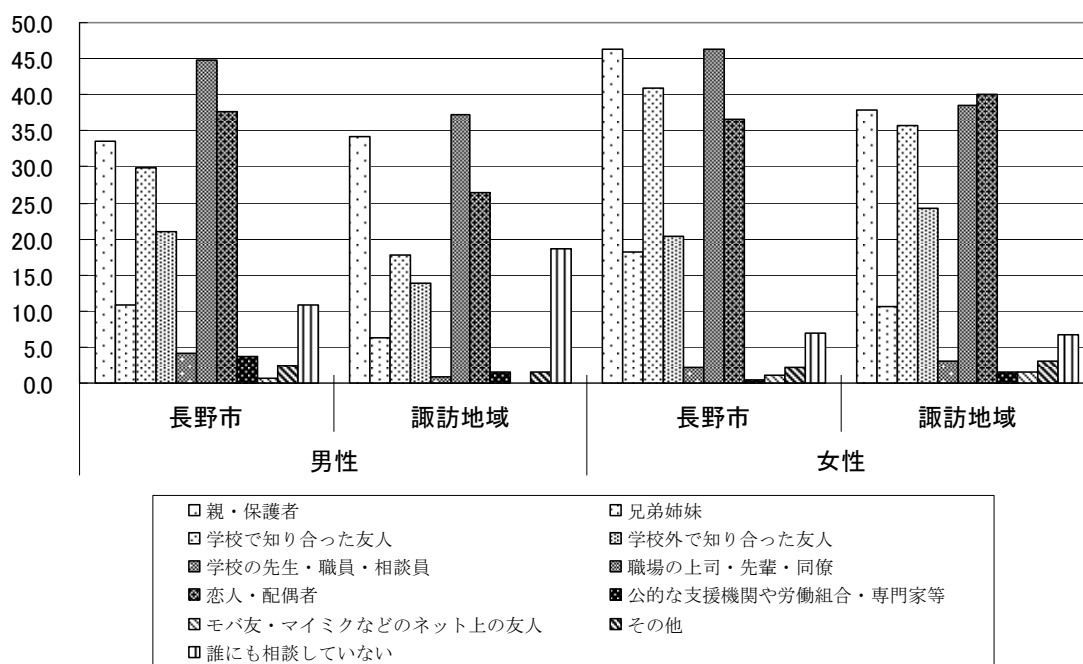
### (3) 地域別に見た相談ネットワークの状況

次に、地域別の状況を見よう。先に悩みの有無については、長野市の若者の方が諏訪地域の若者よりも問題を抱えていることが伺えたが、相談相手はどうだろうか。

共通して見出される傾向は、長野市の若者の方が相談相手は多様であるということである。また、特に男性においては、「誰にも相談していない」という割合が諏訪地域で高い（例えば図表9-11 長野市 10.8%、諏訪地域 18.6%）。なお相談相手に影響を与えると思われる結婚率は、男性はほとんど長野市と諏訪地域は変わらず、女性はやや諏訪地域で高くなっている。

個別の項目についてみると、「これからの生き方や働き方について」（図表9-11）では、長野市は男女とも「職場の上司・先輩・同僚」が飛びぬけて高い。また長野市の女性は「親・保護者」「学校で知り合った友人」の割合が高くなっている。

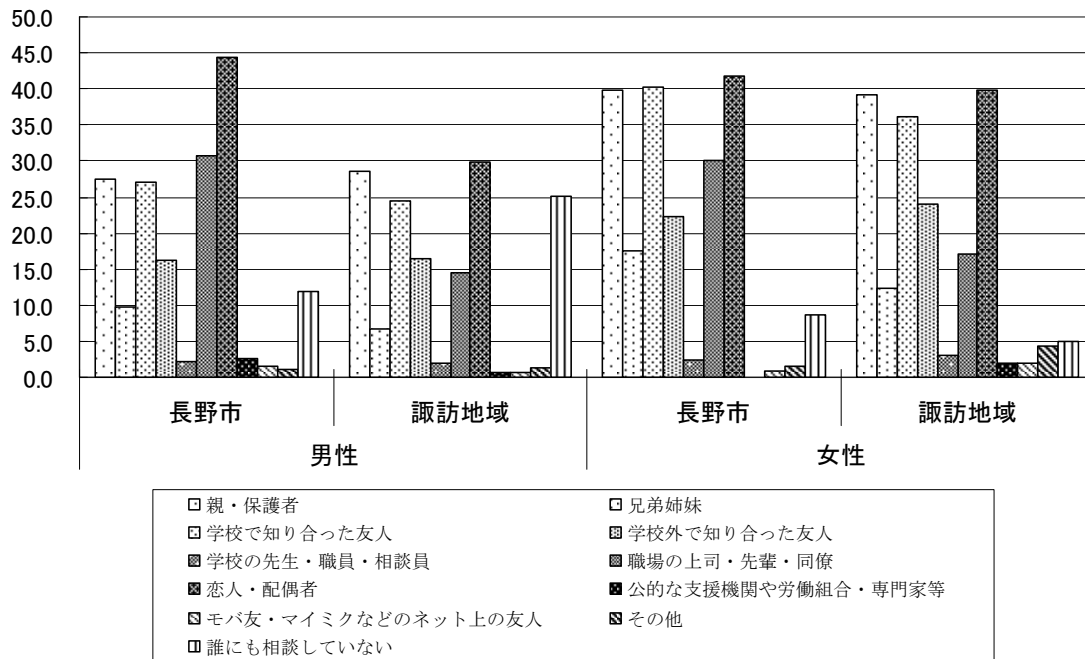
図表9-11 性別・地域別相談ネットワークの状況  
(これからの生き方や働き方について)



次に、「これからの生き方や働き方について」（図表9-12）をみると、「職場の上司・先輩・同僚」と回答した長野市の割合は、男女とも諏訪地域に比べて高くなっている（長野市男性 30.8%、諏訪地域男性 14.6% 長野市女性 30.1% 諏訪地域女性 17.2%）。また特に男性で長野市では「恋人・配偶者」（長野市男性 44.3% 諏訪地域 29.8%）の割合が高くなっている。

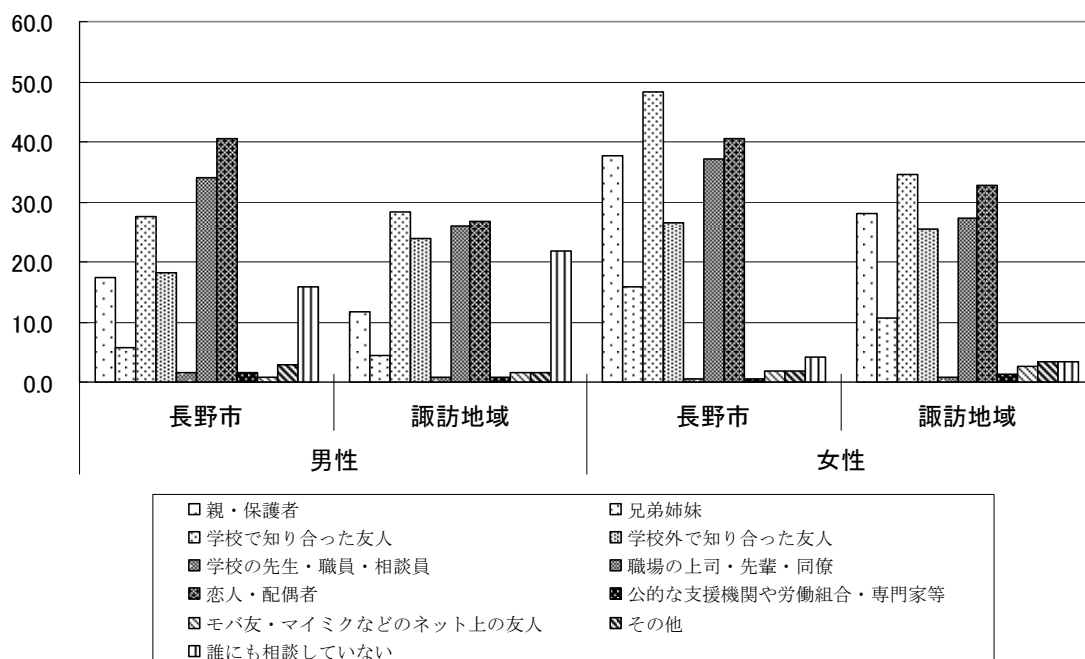


図表 9-12 性別・地域別相談ネットワークの状況  
(これからの生き方や働き方について)



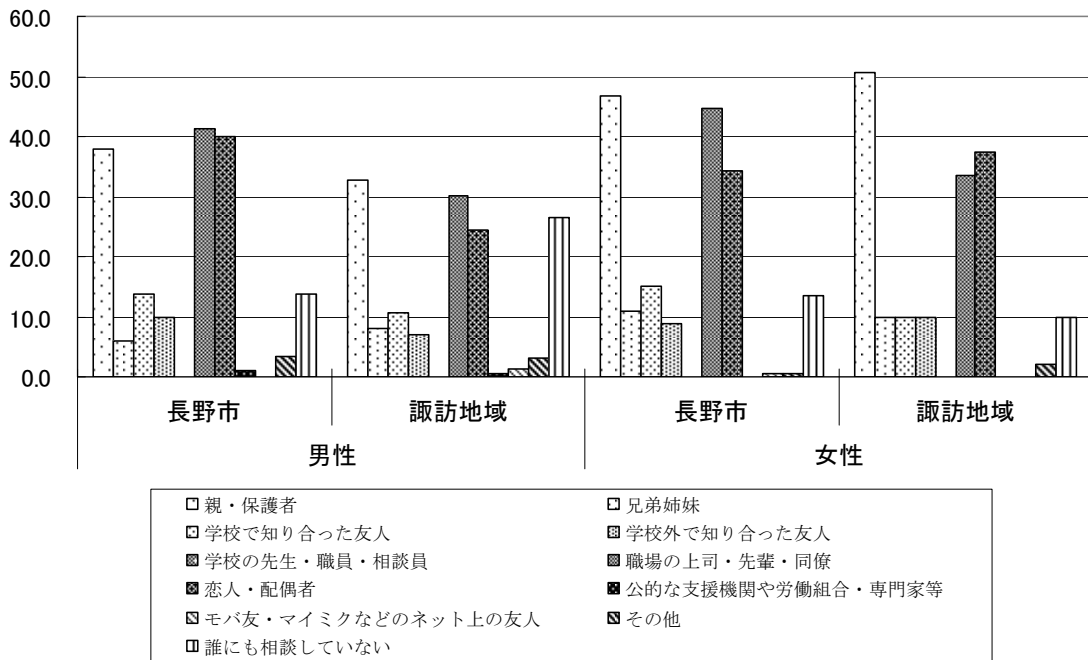
人間関係については（図表 9-13）、「職場の上司・先輩・同僚」「恋人・配偶者」で高くなっているという傾向は共通しているが、長野市の女性で「学校で知り合った友人」が高い（長野市女性 48.2% 諏訪地域女性 34.7%）。

図表 9-13 性別・地域別相談ネットワークの状況（人間関係について）



経済的な問題については（図表 9－14）、いずれも「親・保護者」「職場の上司・先輩・同僚」「恋人・配偶者」が高い。諏訪地域の男性では、「誰にも相談しない」がかなり高くなっている（長野市男性 15.9% 諏訪地域 21.7% 長野市女性 4.1% 諏訪地域女性 3.3%）。

図表 9－14 性別・地域別相談ネットワークの状況（経済的な問題（お金のこと））



#### （4）就業形態別にみた相談ネットワークの状況

次に、就業形態別にみる（図表 9－15）。東京都とは異なり、パート・契約・派遣はもちろん、自営、家族従業者や失業・無業者が少ない。そのため分析には適さない就業形態もあるものの、東京都の調査の際には、正社員、パート・契約・派遣、失業・無業の3つのカテゴリーには顕著な違いが見られたため、参考までに掲載する（以下の分析では触れない）。

働き方については、性別を問わず「職場の上司・先輩・同僚」が重要なエージェントとなっており、正社員がパート・契約・派遣を上回っているという点で東京都の傾向と共通している。しかし相談相手の多様さという点では、それほど明確な差が見出されていない。

図表 9-15 就業形態と相談相手（多重回答）

		親・保護者	兄弟姉妹	学校で知り合った友人	学校外で知り合った友人	学校の先生・職員・相談員	職場の上司・先輩・同僚	恋人・配偶者	公的な支援機関や労働組合・専門家等	モバ友・マイミクなどのネット上の友人	その他	誰にも相談していない	無回答	合計	
今の自分の仕事や働き方	男性	正社員	35.7	7.7	23.5	16.3	2.0	44.4	34.2	3.1	0.5	1.5	13.8	196	
		パート・契約・派遣	29.9	13.4	31.3	26.9	4.5	40.3	32.8	0.0	0.0	4.5	11.9	67	
		自営・家業	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2	
		失業・無職	25.0	8.3	20.8	8.3	4.2	25.0	25.0	4.2	0.0	0.0	16.7	24	
	女性	正社員	42.2	14.2	39.1	21.8	2.7	46.2	40.4	0.9	1.3	2.7	5.3	0.4	225
		パート・契約・派遣	47.0	15.2	39.4	25.8	1.5	37.9	37.9	0.0	1.5	3.0	7.6	0.0	66
これからの働き方	男性	正社員	26.5	8.8	26.1	13.7	1.3	25.2	41.6	1.8	1.3	0.4	16.8	226	
		パート・契約・派遣	28.4	8.1	25.7	28.4	5.4	20.3	33.8	0.0	0.0	2.7	18.9	74	
		自営・家業	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2	
		失業・無職	29.6	7.4	25.9	11.1	0.0	18.5	22.2	3.7	3.7	3.7	22.2	27	
	女性	正社員	41.0	15.7	37.2	23.4	1.5	25.3	44.4	0.8	1.5	2.3	6.5	0.4	261
		パート・契約・派遣	32.9	14.5	39.5	23.7	3.9	25.0	39.5	1.3	1.3	3.9	6.6	0.0	76
人間関係	男性	正社員	14.0	4.8	28.5	20.4	0.5	30.6	34.9	1.1	1.1	0.5	17.2	186	
		パート・契約・派遣	14.3	6.3	30.2	25.4	1.6	31.7	30.2	0.0	1.6	4.8	22.2	63	
		自営・家業	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1	
		失業・無職	15.0	5.0	15.0	15.0	5.0	20.0	30.0	5.0	0.0	10.0	20.0	20	
	女性	正社員	32.2	13.5	40.4	27.4	0.0	35.2	39.6	0.9	2.2	2.6	3.5	0.9	230
		パート・契約・派遣	34.4	9.4	48.4	23.4	1.6	28.1	34.4	0.0	3.1	1.6	3.1	0.0	64
経済的問題（お金のこと）	男性	正社員	33.9	5.1	12.3	7.2		36.9	36.0	0.8	0.4	2.5	17.8	0.4	236
		パート・契約・派遣	37.5	16.7	15.3	12.5		37.5	23.6	0.0	1.4	2.8	26.4	0.0	72
		自営・家業	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
		失業・無職	40.0	0.0	8.0	8.0		24.0	28.0	4.0	0.0	12.0	20.0	0.0	25
	女性	正社員	49.8	10.9	12.1	8.1		42.1	39.3		0.4	0.8	10.9	1.2	247
		パート・契約・派遣	50.7	12.7	15.5	15.5		35.2	29.6		0.0	1.4	11.3	0.0	71
	自営・家業	66.7	0.0	0.0	0.0		33.3	0.0		0.0	0.0	33.3	0.0	3	
	失業・無職	26.7	0.0	13.3	6.7		26.7	13.3		0.0	6.7	26.7	0.0	15	

#### 4. 相談ネットワークのパターン

次に東京調査と比較するため、同じ手順でネットワークのパターンを検証する。

これまでの多重回答による分析では、それぞれの個人が持つソーシャル・ネットワークの総体を把握することが出来ない。そのため東京都と比較可能なように、労働政策研究報告書 No.72 と同様の方法で分析することにした。すなわち現在 11 ある多重回答を、①「家族」＝「親・保護者」「兄弟姉妹」、「職場の上司・先輩・同僚」、②「友人」＝「学校で知り合った友人」「学校外で知り合った友人」、③「恋人・配偶者」、④職場関係＝「職場の上司・先輩・同僚」、の 4 カテゴリーに分類し、組み合わせを分析するという方法であり、全部で 16 パターン存在する。「公的な支援機関や労働組合・専門家等」や「モバ友・マイミクなどのネット上の友人」、「学校の先生・職員・相談員」はきわめて少数であり、東京都の分析でも 4 つのカテゴリーに含まれていないため、今回の分析からは外した。

はじめに性別以外の属性を問わず、ソーシャル・ネットワークの状況について示した。東京調査によれば、職場関係の重要性が指摘されていたため、職場関係をひとつにまとめた。

「今の自分の仕事や働き方について」（図表 9-16）については、男性では職場関係がソーシャル・ネットワークに含まれている割合は正社員で 33.2%、パート・契約・派遣で 43.3% となった。女性は正社員が 45.5%、パート・契約・派遣が 47.0% となった。

図表 9-16 ソーシャル・ネットワーク（今の自分の仕事や働き方について）

	正社員	パート・契約・派遣	自営・家業	失業・無職	合計
<b>男性</b>					
誰もいない	14.8	13.4	0.0	16.7	14.5
恋人・配偶者	9.2	9.0	0.0	8.3	9.0
友人	14.8	14.9	0.0	12.5	14.5
友人＋恋人・配偶者	7.1	4.5	0.0	4.2	6.2
職場関係	9.2	11.9	0.0	12.5	10.0
職場関係＋恋人・配偶者	2.0	4.5	50.0	8.3	3.5
職場関係＋友人	4.1	6.0	0.0	4.2	4.5
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	2.0	3.0	0.0	0.0	2.1
家族＋職場関係	5.1	6.0	0.0	4.2	5.2
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	2.0	6.0	0.0	0.0	2.8
家族＋友人＋職場関係	5.1	3.0	0.0	0.0	4.2
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	3.6	3.0	0.0	0.0	3.1
家族	7.7	7.5	50.0	20.8	9.0
家族＋恋人・配偶者	5.6	1.5	0.0	4.2	4.5
家族＋友人	5.1	4.5	0.0	4.2	4.8
家族＋友人＋恋人・配偶者	2.6	1.5	0.0	0.0	2.1
合計	100	100	100	100	100
N	196	67	2	24	289
職場関係合計	33.2	43.3	50.0	29.2	35.3
<b>女性</b>					
誰もいない	8.0	7.6	33.3	12.5	8.4
恋人・配偶者	12.5	10.6	0.0	6.3	11.7
友人	10.3	9.1	0.0	18.8	10.4
友人＋恋人・配偶者	4.0	4.5	0.0	0.0	3.9
職場関係	7.6	7.6	0.0	6.3	7.4
職場関係＋恋人・配偶者	3.6	0.0	0.0	12.5	3.2
職場関係＋友人	6.3	1.5	0.0	0.0	4.9
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	2.7	6.1	0.0	0.0	3.2
家族＋職場関係	8.5	16.7	0.0	25.0	11.0
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	2.2	4.5	0.0	0.0	2.6
家族＋友人＋職場関係	6.7	4.5	0.0	0.0	5.8
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	8.0	6.1	0.0	0.0	7.1
家族	7.1	12.1	33.3	6.3	8.4
家族＋恋人・配偶者	4.0	3.0	0.0	6.3	3.9
家族＋友人	4.9	3.0	33.3	6.3	4.9
家族＋友人＋恋人・配偶者	3.6	3.0	0.0	0.0	3.2
合計	100	100	100	100	100
N	224	66	3	16	309
職場関係合計	45.5	47.0	0.0	43.8	45.3

「将来の自分の生き方や働き方について」（図表 9-17）については、男性では職場関係がソーシャル・ネットワークに含まれている割合は正社員で 32.7%、パート・契約・派遣で 37.8%となった。女性は正社員が 46.2%、パート・契約・派遣が 47.4%となった。

就業形態によってそれほど職場関係の重要性が低下しないというのは、「現在の自分の働き方について」とそれほど変わらなかった。

図表 9-17 将来の自分の生き方や働き方について

	正社員	パート・契約・派遣	自営・家業	失業・無職	合計
<b>男性</b>					
誰もいない	18.6	20.3	0.0	25.9	19.5
恋人・配偶者	19.5	14.9	0.0	14.8	17.9
友人	8.4	8.1	0.0	7.4	8.2
友人＋恋人・配偶者	5.3	2.7	0.0	0.0	4.3
職場関係	10.6	14.9	0.0	11.1	11.6
職場関係＋恋人・配偶者	4.9	4.1	0.0	3.7	4.6
職場関係＋友人	3.1	4.1	0.0	3.7	3.3
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	1.8	1.4	0.0	0.0	1.5
家族＋職場関係	4.4	8.1	0.0	11.1	5.8
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	3.1	2.7	50.0	3.7	3.3
家族＋友人＋職場関係	3.1	0.0	0.0	0.0	2.1
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	1.8	2.7	0.0	0.0	1.8
家族	8.8	9.5	50.0	11.1	9.4
家族＋恋人・配偶者	4.9	5.4	0.0	0.0	4.6
家族＋友人	1.3	1.4	0.0	7.4	1.8
家族＋友人＋恋人・配偶者	0.4	0.0	0.0	0.0	0.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
N	226	74	2	27	329
職場関係合計	32.7	37.8	50.0	33.3	34.0
<b>女性</b>					
誰もいない	8.8	7.9	25.0	15.8	9.2
恋人・配偶者	16.9	15.8	0.0	5.3	15.9
友人	2.3	7.9	0.0	0.0	3.3
友人＋恋人・配偶者	1.5	3.9	0.0	0.0	1.9
職場関係	11.5	14.5	25.0	21.1	12.8
職場関係＋恋人・配偶者	5.0	3.9	0.0	5.3	4.7
職場関係＋友人	3.8	3.9	0.0	0.0	3.6
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	1.9	3.9	0.0	0.0	2.2
家族＋職場関係	10.8	11.8	0.0	21.1	11.4
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	3.5	5.3	0.0	0.0	3.6
家族＋友人＋職場関係	4.6	2.6	0.0	10.5	4.5
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	5.0	1.3	0.0	0.0	3.9
家族	9.2	11.8	50.0	10.5	10.3
家族＋恋人・配偶者	8.8	3.9	0.0	5.3	7.5
家族＋友人	4.2	0.0	0.0	5.3	3.3
家族＋友人＋恋人・配偶者	1.9	1.3	0.0	0.0	1.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
N	260	76	4	19	359
職場関係合計	46.2	47.4	25.0	57.9	46.8

「人間関係について」(図表 9-18)についても、就業形態によってそれほど職場関係の重要性が低下しないという傾向は共通するものがあつた。

図表 9-18 人間関係について

	正社員	パート・契約・派遣	自営・家業	失業・無職	合計
<b>男性</b>					
誰もいない	18.3	27.0	0.0	30.0	21.1
恋人・配偶者	15.6	9.5	0.0	15.0	14.1
友人	12.4	11.1	0.0	10.0	11.9
友人＋恋人・配偶者	6.5	6.3	0.0	0.0	5.9
職場関係	16.1	17.5	0.0	15.0	16.3
職場関係＋恋人・配偶者	5.9	3.2	100.0	10.0	5.9
職場関係＋友人	9.1	3.2	0.0	0.0	7.0
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	0.5	4.8	0.0	0.0	1.5
家族＋職場関係	2.7	4.8	0.0	0.0	3.0
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	2.7	0.0	0.0	0.0	1.9
家族＋友人＋職場関係	1.1	1.6	0.0	0.0	1.1
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	0.5	3.2	0.0	0.0	1.1
家族	5.4	3.2	0.0	10.0	5.2
家族＋恋人・配偶者	2.7	3.2	0.0	0.0	2.6
家族＋友人	0.0	1.6	0.0	5.0	0.7
家族＋友人＋恋人・配偶者	0.5	0.0	0.0	5.0	0.7
N	186	63	1	20	270
職場関係合計	38.7	38.1	100.0	25.0	37.8
<b>女性</b>					
誰もいない	5.7	3.1	33.3	12.5	5.8
恋人・配偶者	10.5	10.9	0.0	6.3	10.3
友人	8.3	9.4	0.0	0.0	8.0
友人＋恋人・配偶者	5.7	6.3	0.0	0.0	5.5
職場関係	18.9	26.6	0.0	31.3	20.9
職場関係＋恋人・配偶者	6.1	1.6	0.0	6.3	5.1
職場関係＋友人	3.9	3.1	0.0	0.0	3.5
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	3.5	1.6	0.0	0.0	2.9
家族＋職場関係	6.6	12.5	0.0	0.0	7.4
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	3.9	4.7	0.0	0.0	3.9
家族＋友人＋職場関係	5.7	0.0	0.0	12.5	4.8
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	3.9	6.3	0.0	0.0	4.2
家族	8.8	9.4	66.7	18.8	10.0
家族＋恋人・配偶者	3.9	3.1	0.0	6.3	3.9
家族＋友人	2.2	1.6	0.0	6.3	2.3
家族＋友人＋恋人・配偶者	2.2	0.0	0.0	0.0	1.6
N	228	64	3	16	311
職場関係合計	52.6	56.3	0.0	50.0	52.7

「経済的な問題（お金のこと）」については（図表 9-19）、むしろパート・派遣・契約の方が正社員よりも職場関係を頼りにしている傾向があった。ただし男性が 70 名、女性が 70 名という小さい数値であるためにこのような傾向が見られたとも解釈できる。

図表 9-19 経済的な問題（お金のこと）

	正社員	パート・契約・派遣	自営・家業	失業・無職	合計
<b>男性</b>					
誰もいない	21.4	27.1	0.0	32.0	23.4
恋人・配偶者	23.6	10.0	100.0	20.0	20.6
友人	4.1	4.3	0.0	4.0	4.1
友人＋恋人・配偶者	1.4	1.4	0.0	0.0	1.3
職場関係	6.8	5.7	0.0	0.0	6.0
職場関係＋恋人・配偶者	1.4	2.9	0.0	0.0	1.6
職場関係＋友人	2.3	0.0	0.0	4.0	1.9
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	0.5	2.9	0.0	0.0	0.9
家族＋職場関係	1.8	7.1	0.0	8.0	3.5
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	1.8	0.0	0.0	0.0	1.3
家族＋友人＋職場関係	1.4	0.0	0.0	0.0	0.9
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	0.9	1.4	0.0	0.0	0.9
家族	21.8	27.1	0.0	20.0	22.8
家族＋恋人・配偶者	6.8	5.7	0.0	4.0	6.3
家族＋友人	1.8	4.3	0.0	4.0	2.5
家族＋友人＋恋人・配偶者	2.3	0.0	0.0	4.0	1.9
N	220	70	1	25	316
職場関係合計	16.8	20.0	0.0	12.0	17.1
<b>女性</b>					
誰もいない	12.6	11.4	33.3	35.7	13.6
恋人・配偶者	18.9	15.7	0.0	14.3	17.8
友人	1.4	5.7	0.0	7.1	2.6
友人＋恋人・配偶者	0.5	0.0	0.0	0.0	0.3
職場関係	5.4	5.7	0.0	14.3	5.8
職場関係＋恋人・配偶者	1.8	4.3	0.0	0.0	2.3
職場関係＋友人	0.5	1.4	0.0	0.0	0.6
家族＋職場関係	3.6	5.7	0.0	0.0	3.9
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	1.8	5.7	0.0	0.0	2.6
家族＋友人＋職場関係	1.4	1.4	0.0	0.0	1.3
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	1.8	0.0	0.0	0.0	1.3
家族	28.8	38.6	66.7	28.6	31.4
家族＋恋人・配偶者	17.6	4.3	0.0	0.0	13.6
家族＋友人	2.7	0.0	0.0	0.0	1.9
家族＋友人＋恋人・配偶者	1.4	0.0	0.0	0.0	1.0
N	222	70	3	14	309
職場関係合計	16.2	24.3	0.0	14.3	17.8

以上の分析をもとに、チャンネルを数として把握し、その平均値を整理していく。

東京の分析においては、対象者が 18-29 歳であり、無配偶者に限った分析を行っている。しかし長野調査では対象者数はもちろん、非典型雇用者が少ないため、こうした条件に限ると、分析に耐えない数になってしまうという点が問題となった。そこでここではまず、年齢は 20-34 歳で配偶関係を問わず分析を行うこととしたい。

はじめに年齢別に検討してみよう（図表 9-20）。一貫した特徴は見られないが、年齢が高いとチャンネル数の平均値が高いわけではなく、男性については経済的な問題を除くと、20 代前半で平均値が高くなっている。女性は 20 代後半で平均値が高い。年齢が高くなると多様になるわけではないようである。

図表 9-20 年齢別チャンネル数 (平均)

男性	今の自分の仕事や働き方	これから先の生き方や働き方	人間関係	経済的な問題	女性	今の自分の仕事や働き方	これから先の生き方や働き方	人間関係	経済的な問題
20-24	1.58	1.36	1.28	0.88	20-24	1.78	1.59	1.52	1.11
25-29	1.36	1.15	1.15	1.05	25-29	1.82	1.67	1.70	1.23
30-34	1.44	1.24	1.14	1.02	30-34	1.60	1.49	1.58	1.09
平均	1.45	1.24	1.18	0.99	合計	1.73	1.58	1.60	1.15
N	296	336	276	322	N	317	368	318	315

学歴別にはどうか(図表 9-21)。男性は経済的な問題において、高卒以下の層でチャンネル数の平均値が高いことをのぞき、それほど学歴による違いはない。女性は高等教育進学者の方がチャンネル数の平均が多く、多様であることがあらわれている。

図表 9-21 学歴別チャンネル数 (平均)

男性	今の自分の仕事や働き方	これから先の生き方や働き方	人間関係	経済的な問題	女性	今の自分の仕事や働き方	これから先の生き方や働き方	人間関係	経済的な問題
高卒以下	1.45	1.22	1.22	1.04	高卒以下	1.63	1.45	1.45	1.08
高等教育	1.45	1.26	1.14	0.94	高等教育	1.78	1.65	1.68	1.18
その他		2.00	2.00	2.00	その他				
平均	1.45	1.24	1.18	0.99	平均	1.73	1.58	1.60	1.15
N	296	336	276	322	N	317	368	318	315

最後に就業形態別に検討しよう(図表 9-22)。男性から見ると、正社員とパート・契約・派遣はほとんど違いがない。失業無職については有業者と比べるとやや低いものの、それほど大きな差ではない。女性についても、経済的な問題でややパート・契約・派遣が低いものの、正社員とパート・契約・派遣との違いはそれほど大きなものとはなっておらず、失業・無職との違いも小さい。

図表 9-22 就業形態別チャンネル数 (平均)

男性	今の自分の仕事や働き方	これから先の生き方や働き方	人間関係	経済的な問題	女性	今の自分の仕事や働き方	これから先の生き方や働き方	人間関係	経済的な問題
正社員	1.48	1.27	1.20	1.00	正社員	1.78	1.64	1.65	1.21
パート・契約・派遣	1.49	1.22	1.17	0.97	パート・契約・派遣	1.76	1.50	1.56	1.10
自営・家業	1.50	2.00	2.00	1.00	自営・家業	1.00	0.75	0.67	0.67
失業・無職	1.13	1.07	0.95	0.92	失業・無職	1.38	1.42	1.31	0.57
合計	1.46	1.25	1.18	0.98	平均	1.74	1.59	1.61	1.15
N	289	329	270	316	N	309	359	311	309

年齢や配偶関係の要件が異なるために、東京調査と同様の傾向にならないのだろうか。そこでサンプルが小さくなるが、特に東京調査で就業形態による差異が見出された男性について、20-29歳層・未婚者に限って示したのが図表 9-23である。かなり対象数が小さくな



ってしまっているが、有職者と失業・無職についての違いこそあれ、正社員とパート・契約・派遣の違いはほとんどない。項目によっては、パート・契約・派遣が正社員を上回るものもみられる。

図表 9-23 男性 30 歳未満未婚者：就業形態別チャンネル数（平均）

	今の自分の 仕事や働き 方	これからの 生き方や働 き方	人間関係	経済的な問 題
正社員	1.47	1.19	1.24	0.94
パート・契約・派遣	1.51	1.27	1.17	0.97
失業・無職	1.00	1.20	0.82	0.85
平均	1.42	1.21	1.19	0.94
N	137	155	124	148

以上をまとめよう。

すでに述べたように、東京調査の 18-29 歳層の無配偶者の若者に関する知見として、就業形態によってソーシャル・ネットワークの多様さが異なっており、正社員に比べて、パート・契約・派遣や失業・無職などのチャンネルは狭いという傾向が見られた。

しかし長野の若者については、東京都ほどの差異は見出されなかった。これは長野では東京ほど就業形態の多様化がまだ進んでおらず、非典型雇用の割合が低かったために、違いが見られなかったとも解釈される。ただし、就業形態による明瞭な差は見出されなかったものの、有職者と無職者の違いははっきりしており、若者にとって、職場関係の重要性というのは東京都と共通しているものである。若者の世界において、職場は重要な位置を占めているという知見は地域を問わずあてはまる可能性がある。この点については、北海道の分析も参照しながら議論していくことが必要だが、長野県内での違いはあるのだろうか。次に、長野市と諏訪地域について見ていくことにする。

分析によれば（図表 9-24）、4つの項目のうち特に「今の自分の仕事や働き方について」の相談ネットワークのありようが異なることが見て取れた。長野市の男性において職場中心傾向が強い。女性で職場中心傾向が弱い点は大都市と共通している。

図表 9-24 「今の自分の仕事や働き方について」

男性	長野市	諏訪地域	合計
誰もいない	12.6	18.6	15.2
恋人・配偶者	10.2	7.0	8.8
友人	15.0	14.0	14.5
友人＋恋人・配偶者	5.4	7.0	6.1
職場関係	10.8	8.5	9.8
職場関係＋恋人・配偶者	4.2	2.3	3.4
職場関係＋友人	4.2	4.7	4.4
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	3.0	0.8	2.0
家族＋職場関係	6.0	3.9	5.1
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	3.0	2.3	2.7
家族＋友人＋職場関係	4.2	4.7	4.4
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	4.2	1.6	3.0
家族	3.6	16.3	9.1
家族＋恋人・配偶者	4.8	3.9	4.4
家族＋友人	6.0	3.1	4.7
家族＋友人＋恋人・配偶者	3.0	1.6	2.4
N	167	129	296
職場関係合計	39.5	28.7	34.8

女性	長野市	諏訪地域	合計
誰もいない	7.6	10.6	8.8
恋人・配偶者	8.1	15.9	11.4
友人	10.8	10.6	10.7
友人＋恋人・配偶者	3.8	3.8	3.8
職場関係	7.0	8.3	7.6
職場関係＋恋人・配偶者	2.2	4.5	3.2
職場関係＋友人	4.9	4.5	4.7
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	3.2	3.0	3.2
家族＋職場関係	10.8	10.6	10.7
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	2.7	2.3	2.5
家族＋友人＋職場関係	4.9	7.6	6.0
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	8.6	4.5	6.9
家族	10.8	5.3	8.5
家族＋恋人・配偶者	4.3	3.8	4.1
家族＋友人	6.5	2.3	4.7
家族＋友人＋恋人・配偶者	3.8	2.3	3.2
N	185	132	317
職場関係合計	44.3	45.5	44.8

しかし「これからの生き方や働き方について」は諏訪地域で職場の重要性が増している（図表 9-25）。

図表 9-25 これからの生き方や働き方について

男性	長野市	諏訪地域	合計
誰もいない	14.1	26.5	19.6
恋人・配偶者	21.1	13.2	17.6
友人	13.5	2.0	8.3
友人＋恋人・配偶者	4.3	4.0	4.2
職場関係	8.6	15.2	11.6
職場関係＋恋人・配偶者	3.8	5.3	4.5
職場関係＋友人	3.8	2.6	3.3
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	2.2	0.7	1.5
家族＋職場関係	5.9	5.3	5.7
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	3.2	3.3	3.3
家族＋友人＋職場関係	2.2	2.0	2.1
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	2.7	0.7	1.8
家族	6.5	13.9	9.8
家族＋恋人・配偶者	5.9	2.6	4.5
家族＋友人	1.1	2.6	1.8
家族＋友人＋恋人・配偶者	1.1	0.0	0.6
N	185	151	336
職場関係合計	32.4	35.1	33.6

女性	長野市	諏訪地域	合計
誰もいない	9.3	9.2	9.2
恋人・配偶者	14.6	17.2	15.8
友人	4.4	2.5	3.5
友人＋恋人・配偶者	1.5	2.5	1.9
職場関係	11.2	16.0	13.3
職場関係＋恋人・配偶者	3.4	6.1	4.6
職場関係＋友人	4.4	2.5	3.5
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	3.9	0.0	2.2
家族＋職場関係	9.3	13.5	11.1
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	3.4	3.7	3.5
家族＋友人＋職場関係	5.4	3.1	4.3
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	4.9	2.5	3.8
家族	10.2	10.4	10.3
家族＋恋人・配偶者	8.3	6.7	7.6
家族＋友人	3.9	3.1	3.5
家族＋友人＋恋人・配偶者	2.0	1.2	1.6
N	205	163	368
職場関係合計	45.9	47.2	46.5

また人間関係についても(図表 9-26)、男女とも諏訪地域で職場関係のみ(男性 21.7%、女性 26.0%)に集中しており、職場中心となっている。人間関係といえは職場関係のことを示しているということであるのか、あるいは職場以外の人間関係が悩みの中心であり、すでに密度の濃い人間関係の中に生きているために、悩みを持つとその中では相談できず、外に相談相手を求めるようになるのだろうか。ここではこれ以上の検討はできない。

図表 9-26 人間関係について

男性	長野市	諏訪地域	合計
誰もいない	19.6	23.2	21.4
恋人・配偶者	16.7	10.9	13.8
友人	12.3	10.9	11.6
友人＋恋人・配偶者	8.0	4.3	6.2
職場関係	10.9	21.7	16.3
職場関係＋恋人・配偶者	4.3	7.2	5.8
職場関係＋友人	7.2	6.5	6.9
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	2.2	0.7	1.4
家族＋職場関係	5.1	1.4	3.3
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	2.2	1.4	1.8
家族＋友人＋職場関係	1.4	0.7	1.1
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	1.4	0.7	1.1
家族	2.9	7.2	5.1
家族＋恋人・配偶者	4.3	0.7	2.5
家族＋友人	0.0	1.4	0.7
家族＋友人＋恋人・配偶者	1.4	0.7	1.1
N	138	138	276
職場関係合計	34.8	40.6	37.7
女性	長野市	諏訪地域	合計
誰もいない	4.8	6.7	5.7
恋人・配偶者	10.1	11.3	10.7
友人	7.7	8.7	8.2
友人＋恋人・配偶者	4.8	6.0	5.3
職場関係	16.1	26.0	20.8
職場関係＋恋人・配偶者	6.0	4.0	5.0
職場関係＋友人	4.2	2.7	3.5
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	3.6	2.0	2.8
家族＋職場関係	5.4	9.3	7.2
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	5.4	2.0	3.8
家族＋友人＋職場関係	8.3	1.3	5.0
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	6.5	1.3	4.1
家族	11.3	9.3	10.4
家族＋恋人・配偶者	3.6	4.0	3.8
家族＋友人	1.2	3.3	2.2
家族＋友人＋恋人・配偶者	1.2	2.0	1.6
N	168	150	318
職場関係合計	55.4	48.7	52.2

経済的な問題については（図表 9-27）、諏訪地域の男性では「誰もいない」割合が3分の1を占める。長野市では「恋人・配偶者」のみの割合が高く、諏訪地域では「家族」のみが高くなっていた。女性は諏訪地域で「家族」のみが高いという特徴があった。

図表 9-27 経済的な問題（お金のこと）

男性	長野市	諏訪地域	合計
誰もいない	17.2	30.4	23.3
恋人・配偶者	24.7	15.5	20.5
友人	5.7	2.0	4.0
友人＋恋人・配偶者	1.7	0.7	1.2
職場関係	5.7	6.1	5.9
職場関係＋恋人・配偶者	1.7	1.4	1.6
職場関係＋友人	1.7	2.0	1.9
職場関係＋友人＋恋人・配偶者	0.6	1.4	0.9
家族＋職場関係	4.0	2.7	3.4
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	1.1	1.4	1.2
家族＋友人＋職場関係	1.7	0.7	1.2
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	1.7	0.0	0.9
家族	20.7	25.7	23.0
家族＋恋人・配偶者	8.0	4.7	6.5
家族＋友人	1.1	4.1	2.5
家族＋友人＋恋人・配偶者	2.3	1.4	1.9
N	178	148	322
職場関係合計	18.4	15.5	17.1

女性	長野市	諏訪地域	合計
誰もいない	15.0	12.0	13.7
恋人・配偶者	17.3	19.0	18.1
友人	3.5	1.4	2.5
友人＋恋人・配偶者	0.6	0.0	0.3
職場関係	5.8	6.3	6.0
職場関係＋恋人・配偶者	1.7	2.8	2.2
職場関係＋友人	0.6	0.7	0.6
家族＋職場関係	4.6	2.8	3.8
家族＋職場関係＋恋人・配偶者	2.3	2.8	2.5
家族＋友人＋職場関係	1.7	0.7	1.3
家族＋友人＋職場関係＋恋人・配偶者	2.3	0.0	1.3
家族	28.3	34.5	31.1
家族＋恋人・配偶者	13.3	14.1	13.7
家族＋友人	2.3	1.4	1.9
家族＋友人＋恋人・配偶者	0.6	1.4	1.0
N	173	142	315
職場関係合計	19.1	16.2	17.8

先の分析と同様に平均チャンネル数の地域的な違いを見ると（図表 9-28）、男女とも長野市の方が諏訪市よりもチャンネル数の平均が多いことが分かる。

図表 9-28 地域別平均チャンネル数 (平均)

男性	今の自 分の仕 事や働 き方	これか らの生 き方や 働き方	人間関 係	経済的 な問題	女性	今の自 分の仕 事や働 き方	これか らの生 き方や 働き方	人間関 係	経済的 な問題
長野市	1.57	1.36	1.28	1.10	長野市	1.80	1.65	1.77	1.15
諏訪地域	1.29	1.10	1.08	0.86	諏訪地域	1.63	1.48	1.41	1.14
平均	1.45	1.24	1.18	0.99	平均	1.73	1.58	1.60	1.15
N	296	336	276	322	N	317	368	318	315

以上から、東京調査で見られた就業形態のソーシャル・ネットワークに対する影響は長野県では見出されなかったものの、職場関係の重要性は長野県でもみてとることができた。また長野市と諏訪地域による違いが見出され、諏訪では悩みが少ない傾向が見られたが、相談相手になると長野のほうが多様であった。

## 5. 若者の意識について

本節では、若者の意識に着目して分析する。

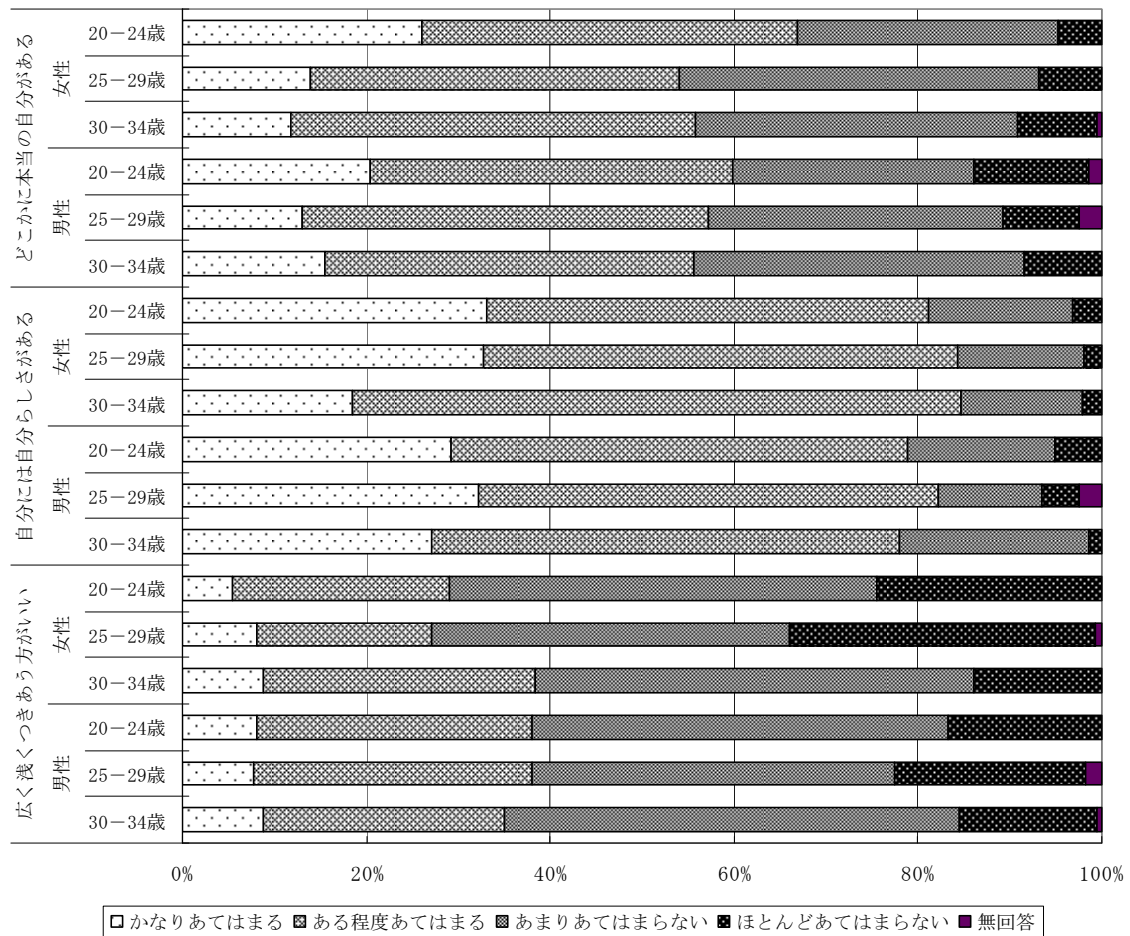
本調査では、「特定の人と深くつきあうより広く浅くつきあう方がいい」、「自分には自分らしさがあると思う」、「どこかに本当の自分があると思う」という3つの質問をしている。

「特定の人と深くつきあうより広く浅くつきあう方がいい」については友人関係のとり方をはかろうとした問いであり、友人関係の「希薄化」が起こっているとの多くの指摘によるものである。

また「自分には自分らしさがあると思う」、「どこかに本当の自分があると思う」は、「自分らしさ志向」(浅野 2007)をはかろうとした問いであり、属性別に違いを検討した。すると、年齢による違いは大きかったが(図表 9-29)、学歴や地域、就業形態による違いはあまり大きくなかった。

学歴別には男女ともほとんど違いはなかったが(図表省略)、「どこかに本当の自分があると思う」については、男性の高卒者では「かなりあてはまる」が21.5%と、高等教育進学者12.5%を大きく上回った。同様に、就業形態別には、男性パート・契約が34.0%、男性正社員で27.5%、女性パート・契約では35.4%、女性正社員24.8%と差が見出された。非典型雇用者で高いことから、非典型雇用に対する否定的イメージから、現在の自分とは異なる自分がどこかにあるという思いに結びついているのであろうか。この点については、第6章の職業生活評価(図表 6-31)において、正社員の方が非典型雇用者よりも現状に肯定的であることと重なり合っていると思われる。

図表 9-29 年齢別自己意識



## 6. 本章の知見

本章では、長野の若者のソーシャル・ネットワークと意識・結婚について検討した。見出された知見は以下のとおりである。

- (1) 悩みの有無を見ると、①女性は年齢があがるほど悩みが少なくなる、②長野の方が諏訪よりも悩む環境にある、③結婚は悩みを減らす、④男性は学歴が低い方が悩むが、女性は学歴が高い方が悩んでいる、⑤正社員よりもパート・契約・派遣の若者の方が悩んでいる、ということが見いだされた。
- (2) 相談相手を見ると、①経済的な問題を除くと、女性において相談相手が多様である、②仕事関係の悩みは「職場の上司・先輩・同僚」の比率が高くなるが、特に高学歴者に顕著である、③高等教育進学者の女性にとって、経済的な問題を除くと「学校で知り合った友人」が重要な相談相手となっている、④高等教育進学者の男性は人間関係については「恋人・配偶者」に、経済的な問題については「職場の上司・先輩・同僚」に相談する比率が高かった、という傾向が見られた。地域別には、長野のほうが諏訪よりも相談相手が多様であった。

- (3) 東京と同じように、職場関係は相談相手として重要な位置を占めていた。しかし東京では、就業形態によってソーシャル・ネットワークの広さが異なったが、長野の若者では有職者については無職者よりも大きかったものの、正社員と非典型雇用の違いは見られなかった。
- (4) 若者の意識についてみると、あまり違いはみられなかったが、「どこかに本当の自分があると思う」については、就業形態や学歴による差が見られた。

東京調査では、有職か無職かだけではなく、有職の場合でも「働き方」が若者のソーシャル・ネットワークを規定していた。しかし長野・諏訪地域では、有職者が無職者かという点についてはソーシャル・ネットワークを左右しているものの、就業形態はソーシャル・ネットワークの多様さにあまり影響を与えていない。こうした違いは、東京の正社員の若者の生活世界が特に職場中心であることから生まれているのではないだろうか。例えば 2002 年の『就業構造基本調査』で東京都の若者の労働時間と東京以外の正社員の労働時間を比較すると(図表 9-30)、東京都は極端に長い傾向が見られる(労働政策研究・研修機構 2006a)。もちろん地方大都市でも相談相手における職場の役割は重要であるものの、生活の中に占める比重の大きさの違いから、就業形態による差異が明瞭ではなくなっているのではないか。

図表 9-30 男性正社員 有業者週間就業時間(地域別・年齢別)

		15時間未満	15-19時間	20-21時間	22-29時間	30-34時間	35-42時間	43-45時間	46-48時間	49-59時間	60時間以上	不詳	合計
15-19歳	東京以外	0.4	0.0	0.2	0.5	1.2	26.4	13.2	24.2	21.7	12.2	0.0	100.0
	東京	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	27.3	11.7	11.5	14.7	32.0	0.0	100.0
	合計	0.4	0.2	0.1	0.4	1.3	26.4	13.1	23.4	21.2	13.5	0.0	100.0
20-24歳	東京以外	0.4	0.1	0.1	0.3	1.0	23.8	14.7	18.5	24.8	16.3	0.1	100.0
	東京	1.7	0.2	0.0	0.4	0.6	20.9	13.8	9.5	24.3	27.5	1.0	100.0
	合計	0.5	0.1	0.1	0.3	0.9	23.5	14.6	17.7	24.8	17.3	0.2	100.0
25-29歳	東京以外	0.3	0.1	0.1	0.2	0.7	21.7	13.9	16.9	25.3	20.6	0.2	100.0
	東京	0.6	0.2	0.0	0.1	0.5	20.8	14.5	13.6	25.4	24.1	0.2	100.0
	合計	0.3	0.1	0.1	0.2	0.7	21.6	14.0	16.5	25.3	21.0	0.2	100.0
30-34歳	東京以外	0.3	0.1	0.1	0.2	0.5	21.5	13.5	15.5	26.5	21.5	0.1	100.0
	東京	0.6	0.1	0.1	0.3	1.1	15.5	14.9	13.5	29.3	24.8	0.0	100.0
	合計	0.4	0.1	0.1	0.3	0.6	20.9	13.7	15.3	26.8	21.9	0.1	100.0

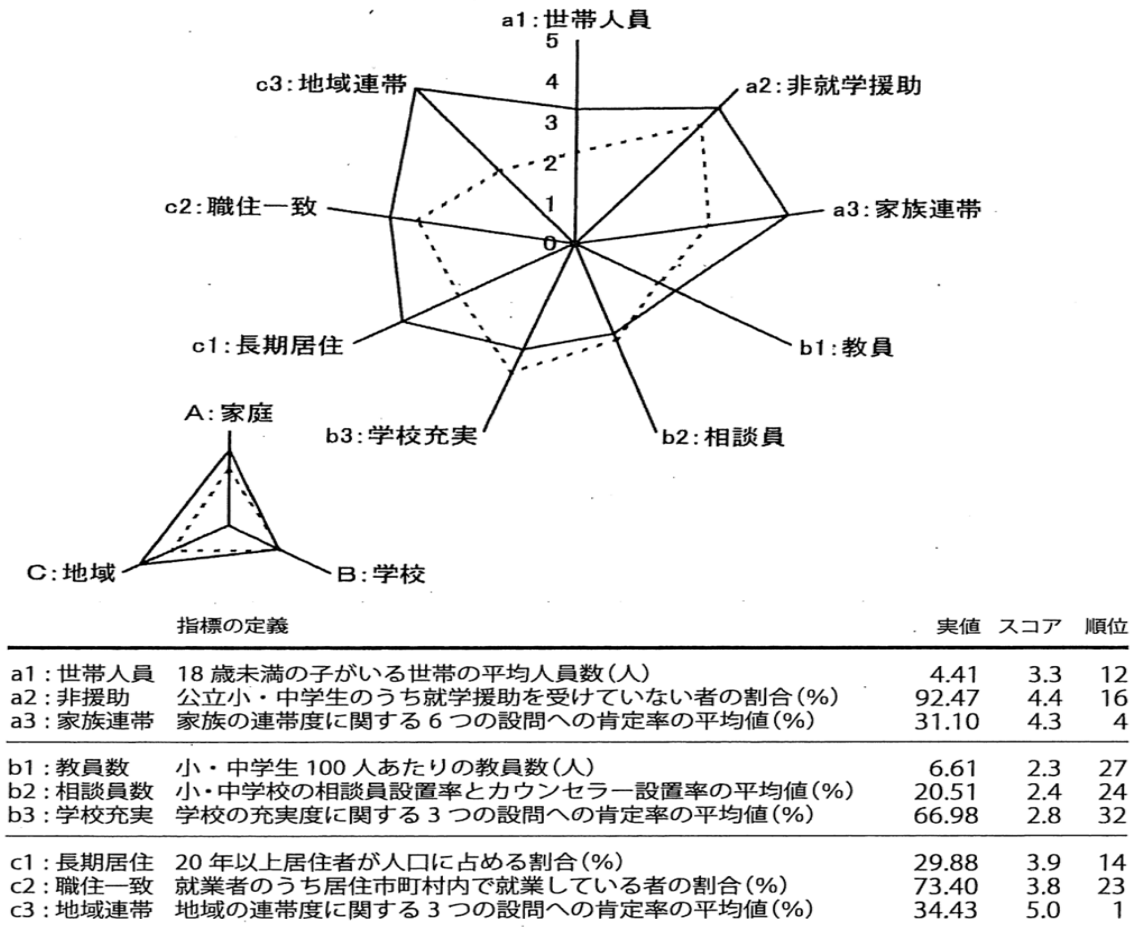
資料出所：労働政策研究・研修機構(2006a)

それでは長野では何がソーシャル・ネットワークを左右しているのだろうか。ここでは仮説的に長野の地域社会を挙げたい。長野と全国を比較すると、その地域社会の強さは際立っているからである。

図表 9-31 は文部科学省『平成 19 年度全国学力・学習状況調査』による、長野県の子どものためのデータである。舞田(2008)によれば、長野の特徴は、地域連帯度の高さにある(実線が長野県、点線が全国平均)。



図表 9-3 1 長野県の地域連帯度



資料出所：舞田（2008）

地域連帯度は、「今住んでいる地域は好きか」、「今住んでいる地域の自然や歴史に関心があるか」、「今住んでいる地域の行事に参加しているか」という設問への肯定率を合計したものであり、長野県はこの平均値が全国でトップになっている。特に「今住んでいる地域の行事に参加しているか」という設問に対する小学生の回答が58.0%と、33.2%（全国）を大きく上回っているという特徴を持つ。ここからうかがえるのは、長野は若い世代の地域への包摂の度合いが高いことであろう。もちろんこれらは子どもの頃の傾向ではあるものの、こうした地域社会の強さが、ソーシャル・ネットワークが就業状態を規定するという傾向を緩和していると推測できるのではないだろうか。しかし地域社会が強い包摂力を持つということは、いったん地域社会から外れると、排除が継続しやすいという危うい面もあるという点で、よいことだけではないことには留意すべきである。例えば、地域社会のメインストリームにはいないであろう非典型社員において悩む割合が高いことや、「どこかに本当の自分がある」ということを強く感じさせているということもひとつの例であろう。

以上から政策的な示唆を整理したい。

本章の知見から見えてきたのは、東京都の若者に見られたようなソーシャル・ネットワークと就業形態との関連は状況によって変わりうるものだという事である。したがって、狭くなりがちな都市部の非典型雇用者のソーシャル・ネットワークに積極的に地域のような他者が介入していくことにより、彼らの置かれた不利な状況が改善される可能性を示していると言える。他者が地域である場合もあるだろうが、公的機関やNPOなどでも代替可能であるかもしれない。ソーシャル・ネットワークへの働きかけがよい就業に結びついていくのであれば、アウトリーチなどの手段による積極的なソーシャル・ネットワークへの働きかけはもっと行われてよいであろう。

### 参考文献

舞田敏彦，2008，『47 都道府県の子どもたち』，武蔵野大学出版会。

労働政策研究・研修機構，2006a，『若者の包括的な移行支援に関する予備的検討』，資料シリーズNo.38。

労働政策研究・研修機構，2006b，『大都市の若者の就業行動と意識』，労働政策研究報告書No.72。